

事例 32

●性 別 ……………女性

●年 齢 ……………87 歳

●介護環境 ……………医療機関

●最も類似する状態像の例 ……… 4 - 5

●要介護度変更 ……………要介護 3 → 要介護 4

●審査及び判定の概要

平成 3 年の大腿骨骨折後、両下肢の筋力低下で寝返りがうてず両足も尖足の状態にあり、意思疎通も困難な事例。

介護認定審査会では、「食事摂取はできているものの、夜間ずっと独り言を言うなどの問題行動があり、また、移乗を 3 人がかりで介助するなど、介護の量が多いのではないか」等の意見が出された。さらに、状態像の例との比較に基づき、要介護 4 に変更した。

介護審査会資料

申請区分：新規申請

被保険者区分：第1号被保険者

年 齢 : 87
 性 別 : 女
 過去の認定審査会結果 : なし
 前回認定有効期間 :
 前回介護保険審査会結果 : なし
 一次判定結果 : 要介護3
 要介護認定等基準時間 : 78分
 機能訓練+間接生活介助:

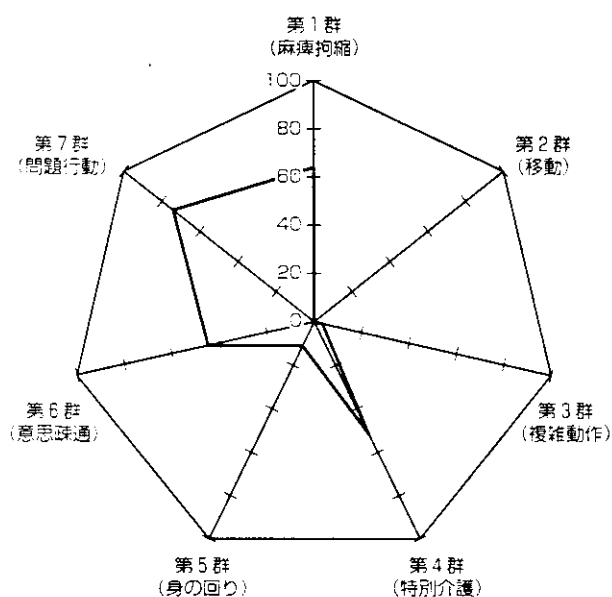
--	--	--

現在の状況 : 医療機関
 訪問介護（ホームヘルプサービス） : 0回/月
 訪問入浴介護 : 0回/月
 訪問看護 : 0回/月
 訪問リハビリテーション : 0回/月
 居宅療養管理指導 : 0回/月
 通所介護（デイサービス） : 0回/月
 通所リハビリテーション（デイケア） : 0回/月
 福祉用具貸与 : 0品目
 短期入所生活介護 : 0日/月
 短期入所療養介護 : 0日/月
 痴呆対応型共同生活介護 : 0日/月
 特定施設入所者生活介護 : 0日/月
 福祉用具購入 : 0品目/6月間
 住宅改修 : なし

障害老人自立度：C2

痴呆性老人自立度：Ⅲa

中間評価項目表



中間評価項目得点

第1群	第2群	第3群	第4群	第5群	第6群	第7群
63.6	0.0	2.5	52.5	11.5	44.4	75.3

<特別な医療>

点滴の管理 : 気管切開の処置
 中心静脈栄養 : 疼痛の看護
 透析 : 経管栄養
 ストーマの処置 : モニター測定
 酸素療法 : 褥瘡の処置
 レスビレーター : カテーテル

第1群 (麻痺拘縮)
 1. 麻 痺 (左-上肢)
 (右-上肢)
 (左-下肢)
 (右-下肢)
 (その他)
 2. 拘 縮 (肩関節)
 (肘関節)
 (股関節)
 (膝関節)
 (足関節)
 (その他)
 第2群 (移動)
 1. 寝返り
 2. 起き上がり
 3. 両足での座位
 4. 両足つかない座位
 5. 両足での立位
 6. 歩 行
 7. 移 乗
 第3群 (複雑動作)
 1. 立ち上がり
 2. 片足での立位
 3. 浴槽の出入り
 4. 洗 身
 第4群 (特別介護)
 1. ア. じよくそう
 イ. 皮膚疾患
 2. 片手胸元持ち上げ
 3. 嚥 下
 4. ア. 尿 意
 イ. 便 意
 5. 排尿後の後始末
 6. 排便後の後始末
 7. 食事摂取
 第5群 (身の回り)
 1. ア. 口腔清潔
 イ. 洗 顔
 ウ. 髪 髪
 エ. つめ切り
 2. ア. ボタンのかけはずし
 イ. 上衣の着脱
 ウ. スボン等の着脱
 エ. 靴下の着脱
 3. 居室の掃除
 4. 薬の内服
 5. 金銭の管理
 6. ひどい物忘れ
 7. 周囲への無関心
 第6群 (意思疎通)
 1. 視 力
 2. 聴 力
 3. 意思の伝達
 4. 指示への反応
 5. ア. 毎日の日課を理解
 イ. 生年月日をいう
 ウ. 短期記憶
 エ. 自分の名前をいう
 オ. 今の季節を理解
 カ. 場所の理解
 第7群 (問題行動)
 ア. 被害的
 イ. 作 話
 ウ. 幻視幻聴
 エ. 感情が不安定
 オ. 昼夜逆転
 カ. 暴言暴行
 キ. 同じ話をする
 ク. 大声をたず
 ケ. 介護に抵抗
 コ. 常時の徘徊
 サ. 落ち着きなし
 シ. 外出して戻れない
 ス. 一人で出たがる
 セ. 収集癖
 ソ. 火の不始末
 タ. 物や衣類を壊す
 チ. 不潔行為
 ツ. 異食行動
 テ. 性的迷惑行動

ある
あるある
ある
あるできない
できない
できない
できない
できない
できない
全介助ない
ない
全介助
全介助一部介助
一部介助
全介助
全介助
全介助
全介助
一部介助
全介助
ある
ときどきある大声が聴こえる
ときどきできる
ときどき通じる
できない
できない
できない
できないある
ある
ある

ある

認定調査票（特記事項）

1. 麻痺・拘縮に関連する項目についての特記事項

- (1-1 麻痺等の有無) 右大腿骨骨折により寝たきりとなり、両下肢の筋力が低下。
(1-2 関節の動く範囲の制限の有無) 膝関節が曲がらず、両足は尖足で左足は内転し、足趾も拘縮している。

2. 移動等に関連する項目についての特記事項

- (2-1 寝返り) 常にベッド柵につかまっている。
(2-7 移乗) 身体を動かそうとすると不安感からかベッド柵につかまったり介護者にしがみついため、3人がかりで移乗介助する。入浴や排泄介助の際も同様にしがみついため、時間を要する。

3. 複雑な動作等に関連する項目についての特記事項

- (3-3 一般家庭用浴槽の出入り) 週1回、器械浴施行。

4. 特別な介護等に関連する項目についての特記事項

- (4-7 食事摂取) ベッドをギャッチアップして自力摂取。

5. 身の回りの世話等に関連する項目についての特記事項

- (5-1 ア 口腔清潔) 自歯、義歯もなく、食後にお茶を飲むことで済ませている。
(5-1 イ 洗顔) タオルを渡して促せばできる。
(5-2 衣服着脱) 指示が通じないため、全介助となる。
(5-6 ひどい物忘れ) 昔と現在が混乱し、繰り返し説明が必要。その場を離れるとすぐ忘れる。
(5-7 周囲への無関心) 難聴のためか関心がある時とない時に波があり、差が激しい。

6. コミュニケーションに関連する項目についての特記事項

- (6-2 聴力) もしもしフォンを使用し、大きな声でやっと聴き取れる。
- (6-3 意思の伝達) 辻褄があわないが訴える。
- (6-4 介護側の指示への反応) 難聴のため、何回も声かけが必要であり、単純なことは通じるが、反応できない時もある。

7. 問題行動等に関連する項目についての特記事項

- (エ 感情が不安定) 怒り出すと耳をかさない。週1～2回。
- (オ 昼夜逆転、キ 同じ話をする) 夜間、ずっと独語が聞かれる。床頭台をいたずらするため、ベッドから離して対応している。週1～2回。
- (ク 大声をだす、サ 落ち着きなし) 家族が見舞いに来た後、「家へ帰る」と大声で騒ぐ。週1～2回。

概況調査 IV

「調査対象者の主訴、家族状況、住居環境、虐待の有無等について特記すべき事項」

- ・ 平成5年7月○日入院。

主治医意見書

記入日 平成12年 1月 〇日

申請者	(ふりがな)	男・女 ②	〒 - 連絡先 ()
	明・大・昭 年 月 日生(87歳)		
上記の申請者に関する意見は以下の通りです。 本意見書が介護サービス計画作成に利用されることに ☐ 同意する。 ☐ 同意しない。			
医師氏名		電話 ()	
医療機関名		FAX ()	
医療機関所在地			
(1) 最終診察日	平成 12年 1月 〇日		
(2) 意見書作成回数	☒ 初回 ☐ 2回目以上		
(3) 他科受診の有無	☐ 有 ☒ 無 (有の場合)→ ☐ 内科 ☐ 精神科 ☐ 外科 ☐ 整形外科 ☐ 脳神経外科 ☐ 皮膚科 ☐ 泌尿器科 ☐ 婦人科 ☐ 眼科 ☐ 耳鼻咽喉科 ☐ リハビリテーション科 ☐ 歯科 ☐ その他 ()		

1. 傷病に関する意見

(1) 診断名 (特定疾病または障害の直接の原因となっている傷病名については1. に記入) 及び発症年月日			
1. 大腿骨骨折後下肢筋力低下	発症年月日	(昭和・平成)	3年 月 日頃
2. 老人性痴呆	発症年月日	(昭和・平成)	5年 月 日頃
3. 難聴、高血圧	発症年月日不詳	(昭和・平成)	年 月 日頃
(2) 症状としての安定性 ☒ 安定 ☐ 不安定 ☐ 不明			
(3) 介護の必要の程度に関する予後の見通し ☐ 改善 ☒ 不変 ☐ 悪化			
(4) 障害の直接の原因となっている傷病の経過及び投薬内容を含む治療内容 (最近6ヶ月以内に变化のあったもの 及び 特定疾病についてはその診断の根拠等について記入)			
骨折後、徐々に下肢の筋力が低下して起立歩行が困難となり、現在は寝返りもうてない。 痴呆も徐々に進行して、入院ベッド内管理を行っている。			

2. 特別な医療 (過去14日間以内に受けた医療のすべてにチェック)

処置内容	☐ 点滴の管理	☐ 中心静脈栄養	☐ 透析	☐ ストーマの処置	☐ 酸素療法
	☐ レスピレーター	☐ 気管切開の処置	☐ 疼痛の看護	☐ 経管栄養	
特別な対応	☐ モニター測定(血圧、心拍、酸素飽和度等)				
失禁への対応	☐ カテーテル(コンドームカテーテル、留置カテーテル等)				

3. 心身の状態に関する意見

(1) 日常生活の自立度等について	
・障害老人の日常生活自立度 (寝たきり度)	☐ 正常 ☐ J1 ☐ J2 ☐ A1 ☐ A2 ☐ B1 ☐ B2 ☐ C1 ☒ C2
・痴呆性老人の日常生活自立度	☐ 正常 ☐ I ☐ IIa ☐ IIb ☐ IIIa ☐ IIIb ☐ IV ☒ M
(2) 理解および記憶	
・短期記憶	☐ 問題なし ☒ 問題あり
・日常の意思決定を行うための認知能力	☐ 自立 ☐ いくらか困難 ☐ 見守りが必要 ☒ 判断できない
・自分の意思の伝達能力	☐ 伝えられる ☐ いくらか困難 ☐ 具体的要求に限られる ☒ 伝えられない
・食事	☒ 自立ないし何とか自分で食べられる ☐ 全面介助
(3) 問題行動の有無 (該当する項目全てチェック)	
☐ 有 ☒ 無	
(有の場合) → ☐ 幻視・幻聴 ☐ 妄想 ☐ 昼夜逆転 ☐ 暴言 ☐ 暴行 ☐ 介護への抵抗 ☐ 徘徊 ☐ 火の不始末 ☐ 不潔行為 ☐ 異食行動 ☐ 性的問題行動 ☐ その他 ()	

(4) 精神・神経症状の有無
☒有 (症状名 **大脳高次機能喪失**) ☐無
 (有の場合) → 専門医受診の有無 ☐有 ☐無

(5) 身体の状態
 利き腕 (☐右 ☐左) 体重 = kg 身長 = cm

☐ 四肢欠損	(部位: 程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重)	凡例
☐ 麻痺	(部位: 程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重)	
☒ 筋力の低下	(部位: 両下肢 程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☒ 重)	
☐ 褥瘡	(部位: 程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重)	
☐ その他皮膚疾患	(部位: 程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重)	

☒関節の拘縮

・肩関節 ☐ 右 ☐ 左	・股関節 ☐ 右 ☒ 左
・肘関節 ☐ 右 ☐ 左	・膝関節 ☐ 右 ☒ 左
☐ 失調・不随意運動・上肢 ☐ 右 ☐ 左	・体幹 ☐ 右 ☐ 左
・下肢 ☐ 右 ☐ 左	

左股関節・膝関節の可動域はほぼ半減。
 左足は尖足位で拘縮している。

4. 介護に関する意見

(1) 現在、発生の可能性が高い病態とその対処方針
☐尿失禁 ☐転倒・骨折 ☐徘徊 ☒褥瘡 ☐嚥下性肺炎 ☐腸閉塞 ☐易感染性
☐心肺機能の低下 ☐痛み ☐脱水 ☐その他 ()
 → 対処方針 ()

(2) 医学的管理の必要性 (特に必要性の高いものには下線を引いて下さい)
☐訪問診療 ☐短期入所療養介護 ☐訪問栄養食事指導
☒訪問看護 ☐訪問歯科診療 ☐その他 ()
☐訪問リハビリテーション ☐訪問歯科衛生指導
☐通所リハビリテーション ☐訪問薬剤管理指導

(3) 介護サービス(入浴サービス、訪問介護等)における医学的観点からの留意事項
 ・血圧について ☐特になし ☒あり (経過観察))
 ・嚥下について ☒特になし ☐あり ()
 ・摂食について ☒特になし ☐あり ()
 ・移動について ☐特になし ☒あり (車いす利用中))
 ・その他 ()

(4) 感染症の有無 (有の場合は具体的に記入して下さい)
☐有 () ☒無 ☐不明

5. その他特記すべき事項

要介護認定に必要な医学的なご意見等をご記載して下さい。なお、専門医等に別途意見を求めた場合はその内容、結果も記載して下さい。(情報提供書や身体障害者申請診断書の写し等を添付して頂いても結構です。)

- ・ 両下肢の機能は全廃している。
- ・ 見当識、記憶力、判断力等、高次機能は失われており、呼名により「ありがとう」「家に帰りたい」等の断片的な発語にとどまる。難聴もあり、意思の疎通は困難である。

